

## 第5回国立市基本構想検討委員会 議事要旨

1. 日 時 平成27年8月28日(金) 19:00~21:00
2. 場 所 くにたち福祉会館大ホール
3. 出席者 永見副市長  
(委員)  
細野委員長、中原副委員長、観音委員、佐藤委員、十松委員、牧瀬委員、渡部委員、近藤委員、佐伯委員、中島委員、土屋委員、増田委員、吉岡委員 (欠席) 小山田委員、牧瀬委員、佐伯委員  
(事務局)  
黒澤政策経営課長、脇領政策経営係長、赤尾政策経営係主任、青木政策経営係主任  
(株)富士通総研 長谷川
4. 傍聴者 5名
5. 議 事
  1. 土地利用について
  2. 基本施策について
  3. 重点施策について
  4. その他
6. 配布資料
  - ・ 次第
  - ・ 第4回国立市基本構想検討委員会 議事要旨
  - ・ 土地利用の検討の視点 (資料No.5-1)
  - ・ 国立市基本構想「基本施策・重点施策」の変遷(資料No.5-2)
  - ・ 他市基本構想における「基本施策」「重点施策」事例(資料No.5-3)
  - ・ 基本施策・重点施策の検討の視点(資料No.5-4)
  - ・ 基本施策・重点施策の関連図(資料No.5-5)
  - ・ 国立市基本構想審議委員会 経過と今後のスケジュール(資料No.5-6)
7. 内 容
  - (1) 土地利用について
    - 前回に続き、土地利用について審議を進めたい。土地利用というのは非常に難しく、特に公益と私益というのはぶつかることが沢山ある。しかも、土地の特性ということを考えていかないといけない訳だが、まず皆様に各地域がどうい

う状況なのか、どういう特性を持っているのかということをご理解頂いた上で、総論について議論をしたいと考え、前回は各論について議論してもらった。(委員長)

- しかし、前回の各論の中から総論にまとめ上げて良い意見もあった。それを資料 No.5-1「土地利用の検討の視点」に整理している。土地利用に関しては、点と線を考慮しながら面で市全体としてどのような姿が望ましいのか、どのようにゾーニングをするのがポイントになると思う。(委員長)
- 自分は、国立市が開催した観光懇談会に委員として参加したが、文教地区の中にホテルを建てるというのは国立のカラーではなく、また、立川市や国分寺市のようなビジネスホテルや多くの人を収容するようなホテルでもなく、国立の緑を楽しむという視点で、国立らしい宿泊施設をつくるのが1つの観光ではないか。(委員)
- 土地利用に関しては、将来人口の推移を勘案し、谷保や矢川の市南部において宅地開発を進めるのか、それとも緑や田畑を残すような土地利用とするのか。また、現在、空家率が高くなっている富士見台団地周辺を再整備し、人口集積を図るのが重要だと思う。(委員)
- 大学がグローバル化することで、若手の研究者を国立市へ誘導するようになるかもしれない。そのときにつれてきた家族が1年間や半年の間、住むところがない。大学で建設することも考えられるが、文化系の国立大学をとりまく厳しい状況を鑑みればむずかしい。そのようなときに、一時的に滞在できる場所として宿泊施設があるとよいかも。ただし、どこにそれをもってくるのかというのは難しい。(委員長)
- 公共施設の老朽化が進行している一方、財政状況が厳しさを増し、既存施設の更新投資がままならない中で、施設の複合化や近隣市との共同利用を進めていく。そのような面からの土地利用、空間利用を考えても良いと思う。(委員長)
- 土地利用の中で、道路の整備は非常に喫緊であり重要である。また、富士見台団地は、子どもたちの教育の場として、合宿等に利用可能な宿泊施設に活用することができるのではないかと。また、外国から観光や仕事、留学のために来訪された人々が、安く、便利に、気軽に泊まれるような施設が市内にあると良いと思うので、団地内の空室をそのような場として活用できれば良いと思う。(委員)
- 農地について、前回、農地は集約した方が良いという意見があったが、自分にはその具体的なイメージが湧かなかった。公共施設の複合化については、立川市のような先進事例のメリット・デメリットを検証した上、その長所を取り入れることは、国立市にとっても必要なことだと思う。また、企業誘致では、是非、知恵や力を出して、教育産業や研究機関の誘致ができれば、国立市らしい土地利用につながると思う。(委員)

- 今後 10 年程度を計画期間とする基本構想を考えた場合、今後のまちづくりを象徴するような取組があっても良いと思う。このため、単に老朽化しているから富士見台団地を改築するのではなく、「文教都市くにたち」の観点から、団地内に研修施設や文化施設をつくることでブランド力を高める、また、教育施設をつくることで子育て世代の流入を促進するといったことを考えるべきである。さらには、佐賀県武雄市のように図書館を民間に委託して整備するというのも、数々の課題はあったが、シンボリックな取り組みでまちのブランドを高めたように思う。このように、富士見台団地を、市を活性化するための資源として、どのように活用していくのかを考えた方が良い。(委員)
- 富士見台団地の隣棟間隔は計算されたものであるため、単にここに施設をうめていくような開発は避けるべきである。国立の魅力は文化性だと思うが、その文化は歴史と切っても切れないものだし、歴史はある意味、年代の長さを表している。このため、今後は古いものを使い続けていく、資源を有効活用するという意味でも、できるだけ使えるものは使っていく。老朽化し機能が低下したり、劣化したりしているものは機能向上を図る。これによって国立の魅力がますます増していくことが重要であり、また、都市計画的な観点も欠かせないと思う。(委員)
- もう 1 つ土地利用の面で、考えておかなければならないのは立川断層。どこを走っているのかなどきちんと把握しておくことが求められる。同時に、南部地域の魅力は、八ヶによって創出されており、八ヶのあり方を真摯に捉える必要がある。(委員)
- 千葉県の柏市では、老朽化した住宅団地の 1 階に地域包括ケアや相談所、子どもの遊び場を移転させ、成功している。また、高齢者が畑でつくった野菜を売り、活性化するような取組がきちんとモデル化されている。このような事例を踏まえ、矢川や富士見台団地では、高齢者と大学生が共存できるような場として活用できるのではないか。団地に住む学生は回転していくものであるが、学生が常に住んでいる状況となれば、高齢者の見守りや地域活動への参加などに好循環が生み出せる。また、谷保に関しては自然を生かして公園のような形とし、観光資源として活用できればと思う。(委員)
- 最近、新聞等のメディアで国立が取り上げられた実績を振り返ると、国立駅周辺ではなく、谷保の自然を活用したイベントや体験教室等が取り上げられている。また、土地利用に関しては、計画の策定段階から、住民・地権者・開発業者・企業と行政と一緒に計画を練り上げていくことが重要だと思う。(委員)
- UR 富士見台団地について補足させて頂きたい。UR は富士見台団地を、建替えではなくリニューアルすることを考えており、団地をどのように再生していくのかをテーマに市と何度か打合せを行っている。市でも担当課長を配置し、地元や団地の自治会、団地周辺の自治会にもヒアリングを行うなど、点ではな

く面として富士見台地域のあり方の検討に取り組んでいる。(事務局)

- 富士見台団地について、現在の居住者は本当に高齢化率が高い。そういう方達がこれからしっかりと何不自由なく暮らせるような気遣いもしていかなければならない。このため、矢川や谷保の商店街はしっかりと残す、郊外型の店舗だけでなく、駅近や街中の商店は非常に重要だと思う。(委員)
- 観光について、谷保天満宮は亀戸、湯島とともに、関東3大天満宮に数えられ、また、知名度が低いが、実は国内で初めて自動車のドライブツアーが行われたのも谷保天満宮である、今後、観光資源として谷保天満宮をどのように活用していくのかも重要な視点だと思う。(委員)
- 観光懇談会では、谷保天満宮の活性化のために、参道という形で駅から鳥居までの道をきれいにして欲しいという要望を出している。(委員)
- 事務局案では富士見台地域は「まちの要」と表現をしている。前回の資料ではその理由として公共施設が集中している等の理由がのっていたが、この理由なしで「要」という言葉を用いると誤解を与えてしまう懸念があるため、注意してほしい。(委員)
- もっと話をしなければいけないかもしれないが、土地利用についてはこの辺りでとどめておきたい。頂いた意見のエッセンスを抽出し、起草委員会の方でまとめたいと思う。(委員長)

## (2) 基本施策について

- 「基本施策」について、資料No.5-4を参照し、この項目が足りないのではないかと、これとこれは順番が違うのではないかなど、何かご意見あれば頂きたい。(委員長)
- 国立市の下水道整備は、どのような状況にあるのか。(委員)
- 公共下水道の普及率は、既に100%に達しており、今後は既存施設の耐震化が課題となっている。また、雨水の排水上問題が生じている地域があり、そのような地域を今後どのようにしていくのかも課題となっているが、基本的に整備自体は完了している。(事務局)
- 施策の並び順は、これで良いと考えているが、1番最初の子育て・教育のところに、子どもたちが主体的に「子育て」するような表現があった方が良いと思う。また、2つ目の保健・福祉について、現在、子どもたちや親の貧困が非常に大きな社会問題となっている中、貧困問題は、「7 地域福祉」に含まれているという考えで良いのか。(委員)
- 子どもの貧困については、地域福祉、子育て支援、青少年育成のどこに位置づけるのかは、これから整理していきたいと考えている。また、本日は、例えば子育て・教育の中で今後の施策展開の際に、国立らしい子育て・教育をどのように展開していくのか、保健・福祉は国立としてどのようにしていけば良いのか

といったように、施策の方向性についてご意見を賜りたい。(課長)

- 「資料 No.5-5 基本施策と重点施策の関連図」について、縦軸は市が実行しやすい区分で良いし、このような分け方はすごく良いと思うが、それでは足りない部分にどのように横串を入れていくのかを議論することがポイントだと思う。縦の から の割り方だけでいうと、例えば、新しい産業をつくるという視点がない気がする。現在ある小規模な店舗をどのように活性化していくのか、市として今ある資産を活用しどのような産業・ビジネスを興していくのか、もう少しそのような視点が良かった方が良いと思う。(委員)
- 各担当課と対応したような割り方であるが、隙間の部分はある。いま指摘のあったR&DやSOHOもそうだし、商店街の空き店舗には、今後物販のみならず、福祉関係の施設がはいるなどの変化も想定される。(委員長)
- 国立市では、将来的に消防や市の病院をつくるような計画があるのか、考えをお聞きしたい。また、31の基本施策に対し、同等に注力することは非常に難しいと思うので、選択と集中のもと、重要度の重み付けをすべきだと思う。(委員)
- 消防について、多摩地域26市では稲城市を除き、いずれも東京消防庁に業務を委託している。これは、広域的な連携、装備力、人材育成等を総合的に勘案した場合、東京消防庁に消防及び救急を委託する方がより効果が高いという判断の結果であり、将来的にもこれを変える意向は持っていない。(副市長)
- 病院について、市内に大きな病院はないが、病院へのアクセスは非常に恵まれた地域である。特に、子どもたちのERは直で府中病院が受けてくれるという非常に恵まれた環境にあるため、現在、市として病院を持つという考え方は持っていない。(副市長)
- 現在は、大きな病院に直接出向く前に、地域のかかりつけ医に診てもらい、かかりつけ医から病院へ紹介してもらうのが主流となっている。このため、かかりつけ医からの紹介状がなければ、診療費が高くなる仕組みとなっている。(委員)
- すなわち医療面での機能分化が進み、病院の役割が変化しており、しっかりとしたかかりつけ医を持てば、きちんとした医療が受けられるシステムができている。また、現在、どこの国立病院も赤字を増えている中で、あえて市が病院を持つことで、財政を圧迫する必要はないのではという気がする。(委員)
- 前回のワークショップに参加した際に、参加者の中から市のホームページが見にくい、何か検索した時に非常に分かりづらいという意見が最も多かった。このため、もっと広報を、また、市民は勿論、市外の方にももっと国立の良さをアピールするような施策が入っていると良いと感じた。(委員)
- 今の広報の意見には大賛成であり、1つの施策として位置付ける必要があると思っている。また、「24 商工業、観光」は2つに分ける、「 .保健・福祉」は、困窮しそうな方に対する予防的な側面も持った自立支援を加えた方が良いのではないかと。(委員)

- 施策と担当課を1対1で対応させようとした時、もう少し行政組織を細分化しても無理がないかどうか、その辺りのことを少しお聞きしたい。(委員長)
- 基本構想・計画を実行する場合、どのような組織とすべきかをあらためて考えるので、柔軟に対応できる余地はある。ただし、行政分野や組織を細分化すると、かえって業務効率が悪く、十分機能し得ないことも考えられるため、効率性や機動性を含め総合的に考えていく必要があると考えている。(副市長)
- やはり住民周知という部分でも、広報は非常に重要だと思う。また、自立支援に関してどこかに位置付けても良いと思うが、地域福祉では少し分かりづらいのではないかと。観光は、中途半端ではなく、しっかりと取り組むべきである。(委員)
- 市内の農業をブランド化し海外展開することで、収益を上げるのも1つの案だと思うが、農業・農地は、観光振興の資源として有効活用していくという視点も必要と思っている。(委員)
- 青少年の自立支援は、どこに含まれるのか。もし、含まれていないのであれば、どこかに明記しても良いのではないかと。また、「地域・安全」の中に「13 コミュニティ」、「自治体経営」の中に「27 市民協働」とあるが、なぜこのような括りになっているのか、イメージがはっきりしないので教えて頂きたい。(委員)
- 行政には、出せる情報と出せない情報があるのは分かるが、そこを精査しながら、できるだけ情報を出して広く意見を聞き、意見を出し合った後で市民と折合いをつけながら、最終的には行政が責任を持って決めて頂く。そのような観点からの広報は、非常に重要だと思う。(委員)
- 青少年の自立といった側面は、「3 青少年育成」の中に位置付けていく。また、コミュニティをどこに位置付けるのかは、庁内でも議論が分かれたが、やはり地域の安全という中で、防災と防犯は、コミュニティの役割、地域が担う役割が非常に大きいという考えのもと、このように整理している。一方、市民協働は、市民と協働しながらまちづくり、自治体経営に取り組むという意味でこのような整理となっている。(事務局)
- 恐らく阪神・淡路大震災もそうであったが、コミュニティがきちんとしているところと、そうではないところでは、災害の程度が異なっている。それ以外の政策分野でも、色々なところでコミュニティは必要となるため、横串という面で考えていかなければいけない。(委員長)
- 今後は図書館にも力を入れて頂きたいので、「9 生涯学習」の中に分かりやすく「図書館」という言葉を含めると良いと思った。また、財政状況が厳しさを増している中、「29 行政運営」の中に「広域行政」のような言葉も含まれていると分かりやすいのではないかと。(委員)
- 産業について、分野に関わらず新しい産業の育成・振興に力を入れていくべき

だと思う。その際に横串として、青少年が社会に出て成功することや産業自体も良くしていくという意味で、「次世代育成」という横串があれば良いのではないか。(委員)

- どのような横串を刺すのか、恐らくそこが市全体として国立のブランド力につながっていくのだと思うし、その点を考えた方が良い。(委員長)
- 先程話のあった柏市のような感じで、国立モデルのような形ができると1番良いのではないか。(委員)
- 現在、色々な意味でコミュニケーションが不足しており、コミュニケーションという要素が不足しているのではないか、そのためのコミュニティづくりの仲人役、仕掛けづくりを市の役目としても良いのではないか。高円寺の阿波踊りのように、多くの人々で賑わうイベントを開催し、国立を活性化していくことや、景観と文化遺産は不可分な関係のため、双方の連携についても考えた方が良いと思う。(委員)

### (3) 重点施策について

- 重点施策について、資料 No.5-5 には「次世代育成」、「ブランド力の強化・発信」、「安心・安全のまちづくり」という3つの横串があるが、これを再構成するなり、もっと付加するなり、この辺りを少し考えて頂きたい。(委員長)
- 例えば「次世代育成」では、子育て支援と義務教育にしか黒丸が付いていないが、行政として重点施策に取り組む担当課が一緒になってやるというイメージなのか、次世代を育成するために関わる分野を重点施策として、この横串で全部やるのかということがちょっと分かりにくい。(委員)
- それは事務局に問うのではなく、ここで議論して欲しい。例えば「次世代育成」では、「青少年育成」にも黒丸が必要であるという話とか。(委員長)
- 「次世代育成」では、次世代が防災を知らないというのは、命に関わることになるので、「防災」も入ってこなければいけないと思う。消費者として騙されないという観点からは「消費生活」や「商工業」、また、今後オリンピックも開催されるので、「スポーツ」という要素も重要だと思う。(委員)
- 行政が何をやっているのか、情報公開していくという面と、こういうものを行っているということを伝えていくという面を重点施策として取り組む。国立市は色々と先端的なことに取り組んでいるのに、それを知らない人が多い。このため、伝えていくということに重点を置いた方が良いと思う。(委員)
- 優れた行政というのもブランド力の1つかもしれない。情報の受発信にどのような意味を持たせ、みんなで了解し、みんなでまちづくりをするという雰囲気をつくる、それはブランド力としてとても大事かもしれない。(委員長)
- 「次世代育成」は、全ての基本施策に関わってしまうが、余りにも対象が広がってしまうと収拾がつかなくなってしまう。どこに力を入れるのか、どう集約

していくのが大切である。(委員)

- ほとんど賛同できるところではあるが、「文教都市」と「文化・芸術」という言葉を余りにも狭いスペースに押し込んでいると思う。「文教都市」は教育だけではないのではないかというのが、すごく悔しいところではあるが、例えば「教育水準」よりも「教育環境の充実」と言った方が伝わりやすいし、自分の中ではしっかり来る。(委員)
- 「ブランド力の強化・発信」に、「文化・芸術」を入れ込むのは賛成だが、私たちが生まれ育っていく段階で、頭が柔らかい・心が柔らかいのは、やはり文化・芸術の力だと思っている。コミュニティや教育、観光にも文化・芸術の力が必要となるため、「ブランド力の強化・発信」のところだけに収めてしまうのは勿体ないと思う。(委員)
- 「次世代育成」について、文教都市としてどのような人材を育てていきたいのかを考えた方が良いのではないか。また、文化施設をつくったり、教育施設を何とかするという議論は、次世代育成とすごく関係するようなことではないか。例えば、縦串の都市基盤の中に文化施設や教育施設というようなものがあると国立らしいのではないか。これにより、国立の人材育成は、勉強ができる子どもを育てるだけではないということ、子育てしやすいまちになるということだけではないことが言えるのではないか。(委員)
- 今までの話を聞くと、「次世代育成」には青少年育成や地域福祉、文化・芸術活動、スポーツ・レクリエーション、防災、防犯、消費生活、商工業、観光、農業にも黒丸が付くのかもしれない。また、「ブランド力の強化・発信」では、生涯学習、情報公開や個人情報の保護、市民協働、行政運営の辺りに黒丸が付くのかもしれない。(委員長)
- 主要プロジェクトの中に「市民参加」という言葉を入れても良いのでは。市民が参加するというのが非常に国立らしいという気がする。(委員)
- 次世代育成に関連して、地域活動の担い手が固定化してしまっている。一方で、一度やってみるととても楽しんでくれるし、興味がある人がすごく多くなっている感触がある。例えば、市報などに「何丁目で神輿の担ぎ手を募集しています」とか、そういったことを橋渡しの的にやって頂ければ良いと思う。次世代を育成しながら、色々な人たちがアイデアを出し合うことが、国立のブランドの1つではないか。街並みと人材という2本立てが1つのブランドになれるのではないかと思う。(委員)
- 基本構想というのは憲法だと思っており、それぐらいの重みを持っているということ、もう1回再確認していくようにしたいと思う。時間の関係もあるので、この横串と縦串のところを少し再構成するとともに、重点施策がこの3つのプロジェクトで良いのかどうかを含め再検討をお願いしたい。(委員長)

(4) その他

< 起草委員の選任 >

- 第3・4期の基本構想審議委員会における起草委員は、委員長からご提案を頂き、会議中にご承認頂くという形で決めている。また、起草委員以外の委員からのご意見は文書等で提出して頂き、委員会の場で参考としていた。今回も同様な形式で、人数は6名程度とさせて頂きたいと思っている。(事務局)
- 起草委員は6人でなければ駄目なのか。(委員長)
- 報酬の予算上、最大でも8名までとさせて頂きたい。(事務局)
- それでは、立候補を募りたいがどうか。(委員長)  
(立候補者なし)
- それでは、小山田さん、十松さん、佐藤さん、渡部さん、佐伯さん、吉岡さん、土屋さんに、自分を加えた8名としたい。欠席の方には、事務局から確認いただきたい。起草委員会の運営について、事務局からご説明頂く。(委員長)
- 起草作業に集中していただくため、会議及び会議録は非公開とさせて頂きたいがよろしいか。(事務局)  
(意見なし)
- 意見書は、どのようなタイミングで出せばよいのか。(委員)
- 別途ご案内をさせて頂く。(事務局)

< 「次世代を担う子らによるくにたち会議」開催について >

- 委員から「次世代を担う子らによるくにたち会議」の開催という意見書が出された。これについては事務局ではどのように考えるのか、説明をお願いしたい。(委員長)
- 中高生の意見を頂きたいという趣旨については、大変賛同しているが、開催はスケジュールの面で非常に厳しい状況にある。また、以前、委員からご提案頂いた作文について、応募総数自体がすごく少なかったということもあり、この仕組にどこまで時間をかけ、また、参加してくれる子どもたちをどこまで集められるかというところに不安があり、開催は厳しいと考えている。(事務局)
- 事務局から、人が集まるかどうかというのが懸念材料になっているという話があったが、どうするか。(委員長)
- 子どもたちの意見を聞くことを否定はしないが、丁寧な手続きが必要ではないか。教育委員会や学校、議会などにもきちんと理解をいただくべき。現段階では先々開催ができる素地を作っていく段階にあると思う。(委員)
- 提案委員は、これを、今、私たちがやっている作業につなげていくのか、それとも今後の国立のまちづくりの中に取り入れていく準備をしようということなのか、どちらを選択されているのか。(委員長)
- パブリックコメントという形で子どもたちの意見を出すというのが理想的だが、

集まらないことに対して予算を執行できないというのであれば、それは致し方ないと思う。ただ、子どもたちの意見を行政の中に入れていくということは考えて欲しい。(委員)

- 例えば、パブリックコメントを求めるにあたって、「是非、中高生も声を寄せて下さい」という一文を載せる程度で良いのかなと思う。(委員)
- 提案されたことはとても貴重なことだと思うが、時間をかけたほうがいい。また、やり方が問題だと思う。大人が集まってくれと行って来てくれるかという疑問がある。こちらから出かけていく姿勢や、子ども同士で話ができて、大人が後ろでサポートするような環境を整える必要がある。(委員)
- この中でパブリックコメントを出したことのある方はどれ位いるのか。(委員)
- 別の市で出したことがある。(委員)
- 子どもたちの意見も何らかの形で取り入れた方が良くと思うのと、パブリックコメントが余り機能していないと思うので、総合計画を市民に周知する際も、何らかの対策を考えて頂けたら良い。(委員)
- 例えば、市が開催するのではなく、市民団体やNPO等が開催する場合に、学校にチラシを配布することはできないか。(委員)
- それはハードルが高いと考えている。(事務局)
- 子どもたちの意見を吸い上げるというのはとても大事で、それを行政が参考にするというのも1つのブランドだと思う。もう少し考えてみたら良いのではないか。それでは、皆様からご意見を頂いたが、時間のこともあるので、中高生の会議について、今回は見送るという形にしたいと思うがそれで良いか。(委員長)

(意見なし)

- ではそのように決することとする。次回の日程について、事務局から説明を(委員長)
- 次回は9月14日(月)に開催する。議題は、本日の残りとして将来人口についてとなる。また、先程お話しした作文も紹介する。(事務局)

以上